

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23242040

研究課題名(和文)「書物・出版と社会変容」研究の深化と一般化のために

研究課題名(英文)Further Studies on Books, Publishing and Social Change in Japan

研究代表者

若尾 政希 (WAKAO, Masaki)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：80210855

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,200,000円

研究成果の概要(和文)：(1) <書物・出版>と<社会>との相互的関係の様相を解き明かしていくために、A書物・出版と環境、B本屋・出版、C写本と刊本、D流通、E享受者・読者、F作者・思想家、G古代中世、H近現代の8つの研究項目班を設定した。(2) 日本各地でフィールドワークを行い、資料の整理・掘り起こしを行った。(3) 「書物・出版と社会変容」研究会を5年間で40回開催するとともに、雑誌『書物・出版と社会変容』を10号出し、研究成果の一端を収載した。(4) 『シリーズ 本の文化史』(全6巻、平凡社)を企画し、巻1から巻3まで3冊を出版した。

研究成果の概要(英文)：1.The following eight project subgroups were formed in order to elucidate the mutual relation between books, publishing and society: (A) Books, publishing and environment (B) Publishers and publishing (C) Manuscripts and published books (D) Circulation of books (E) Readers (F) Writers (G) Ancient, Medieval (H) Modern 2.Through several fieldworks conducted in 5 years, the project subgroups found and organized historical documents and books. 3. "The Society of Books, Publishing and Social Change" met 40 times in 5 years, and the Society published 6 issues of Books, Publishing, and Social Change in 5 years. The 10 issues contain articles, reviews of historical documents and books, and fieldwork reports. 4. The study group planned the publication of A Cultural History of Books (6vols). Volumes 1 to 3 were published by the end of fiscal year 2015.

研究分野：日本史、思想史、文化史

キーワード：日本史 国文学 思想史 総合史 出版史 メディア史

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究の研究代表者は、2003(平成15)年に、「書物・出版と社会変容」研究会を立ち上げ、参加者を募った。当初は、日本近世史研究者のみによる数人程度の参加者による会合及び意見交換ができればいいと思っていた。しかし、実際始めてみると、九州から北海道まで日本各地から研究者が参集し、報告者の研究報告をめぐって、熱心な討論が続けられた。しかも参加者の専門は、古代史～近現代史まで多様であった。さらに日本史だけでなく、近世文学、日本語学、書誌学、民俗学、教育史、宗教史等々、多彩な専門家が集まってきた。すなわち「書物・出版と社会変容」研究への関心は、日本史研究者だけのものではなく、広く人文学の研究者に共通のものであったのである。こうした学際的な研究会活動を通じて共同研究を結成する機運が熟し、2005(平成17)年4月から科学研究費の交付を受け、2010(平成22)年10月の時点で、59回の研究会を開催してきた。

(2)これまでの59回の「書物・出版と社会変容」研究会の議論や共同研究、共同調査等を通して、「書物・出版と社会変容」研究に関する個別事例にもとづく研究成果を共有してきた。また、研究会の参加者は、それぞれの研究成果を著作や論文等にまとめ、学界に発信してきた。そうした活動を通じて、ようやくにして蔵書・書物の史的価値が研究者に認知されるようになってきた。

しかし、たとえば、日本近世史を専攻するすべての研究者が、蔵書・書物を史料として使い始めたわけではない。むしろ、おおかたの研究者にとって「蔵書・書物」の研究は、現在流行の特別な分野であるというような認識にとどまり、自らが積極的にそれに参与するものとはなっていない。研究者にして、このような認識であるので、一般の国民は、なおさらである。これが、蔵書・書物の散逸という深刻な状況を招いている。戦後、日本史研究は手書きの文書を発見することによって、新境地を開いてきたが、文書と一緒に出てくる蔵書・書物は徹底的に無視してきた。それは、1990年代まで半世紀にわたって続いた。そのため、蔵書・書物をもつ家の子孫も、先祖の肉筆でかかれた文書は大切にすが、紙魚(しみ)に食い荒らされ埃をかぶった書物を嫌い、家を建て替えるときや、地震・台風等の災害に襲われたときに、処分したり、骨董商に引き取ってもらったりと散逸し続けたのである。いまや、研究者は総力をあげて、こうした書物資料を散逸の危機から救い出さねばならない。本研究は、これを全面的に引き受けるには、規模が小さく研究経費も少ない。しかしながら、蔵書・書物の研究で現在、人文諸科学のそれぞれの分野をリードしている研究者を本研究に糾合することができた。微力であるが、各地の研究者と連携しつつ、蔵書の掘り起こし(と顕彰)作業を行い、また「書物・出版と社会変容」研

究会を日本各地で開催し、問題意識と関心を共有する人びとを増やしていきたいと考えたのである。

2. 研究の目的

(1)周知のように、戦後の日本史研究、とりわけ近世史研究は、日本各地に眠っている文書の掘り起こしと分析によって、新たな境地を開いてきた。ところが、光を当てられたのは文書だけであり、一緒に出てきた蔵書・書物の史的価値に気づかず、半世紀にわたって放置されてきた。21世紀の今、蔵書・書物の重要性が研究者により認知され、ようやくにして文書と蔵書・書物の双方を史料として歴史を叙述できる新しいステージ(研究段階)に入ったといえることができる。本研究は、このような研究状況を確固たるものとするために、書物・出版と社会との相互関係を解明する「書物・出版と社会変容」研究を、より「深化」させた。あわせて、そうした研究を、研究者だけにとどめず、広く国民にまで「一般化」すべく努力した。

(2)本研究では、次の点について解明していきたい。

日本列島上の人類史において、支配者だけでなく民衆の上層までの広範な人々が書物に関心をもち蔵書を形成し始めたのは、近世である。近世は、この列島で初めて商業出版が成立し、版本と写本とが流通し読まれ書写された時代である。書物の登場とその普及は、17世紀から現代までを書物の時代と一括りできるほどの大きな変革であった。いったい、なぜ17世紀に商業出版が成立したのか。書物が、領主層から民間までに急速に流通・普及したのはなぜか。書物・出版が媒介する知(知恵・知識)は、どのような歴史的役割を果たしたのか。このような<書物・出版>と<社会>との相互関係の様相について、個別事例に基づいた研究成果を蓄積する。

日本史だけでなく、近世文学、日本語学、書誌学、民俗学、教育史、宗教史等の研究者をも糾合し、研究会を開催し、共同でフィールドワークを行うことにより、書物・出版に関する資料論を確立していくために議論を深めた。

すべての研究者が手書きの文書とともに蔵書・書物をも史料として、双方を使いこなして歴史を叙述できる段階にまで引き上げていかねばならない。そのために、「書物・出版と社会変容」研究の一層の「深化」と、これまで蔵書や書物に関心のなかった研究者や、広く国民にまで「一般化」していくために尽力した。

3. 研究の方法

研究方法、及び研究計画の概要は次のとおりである。

(1)書物・出版と社会との相互関係を解明するために、8つの研究項目班と10のフィールドワーク班を設定した。

(2)「書物・出版と社会変容」研究会を、月例で開催する。一橋大学を会場とする通常の例会とは別に、年に2回、日本各地に会場を移し開催した。地方大会では、各地の書物・出版に関心を有している研究者と交流するとともに、現代の書物・出版文化までを視野に置いて、市民とも積極的に交流した。その結果、書物を対象とした研究の重要さと、書物の史料としての重要性を、共有することができた。

(3)研究会誌『書物・出版と社会変容』を毎年2巻印刷する。また、研究者・学生・一般市民も対象とした講座(仮称『書物・出版と社会変容』)を準備し、刊行した。

4. 研究成果

(1)本研究では、A書物・出版と環境、B本屋・出版、C写本と刊本、D流通、E享受者・読者、F作者・思想家、G古代・中世、H近現代の8つの班を設定し、班ごとの研究を進めるとともに、日本の出版文化をこの8つ研究視角から捉えることの是非について議論した。

(2)全国各地(16の都道府県)でフィールドワークを行い、書物・出版研究に関わる史料を調査し、デジタルカメラで撮影した。

(3)それぞれの研究班の成果を持ち寄って、「書物・出版と社会変容」研究会を開催した。この5年間に40回の研究会(第63回~第103回)を開催した。通常の一橋大学佐野書院の他、長野県松本市、大阪府大阪市、国文学研究資料館(東京都立川市)、北海道伊達市、群馬県前橋市、奈良県奈良市、福岡県福岡市、愛知県名古屋市、島根県松江市、岡山県岡山市、鹿児島県鹿児島市にて開催することができた。それぞれの地元の研究者や市民にも参加を呼びかけ、交流し、意見交換をすることができた。

(4)一年の研究成果を取りまとめた雑誌『書物・出版と社会変容』を、5年間で10号(第11号~第20号)編集・印刷し、全国の教育・研究機関、史料保存機関に配布するとともに、一橋大学機関リポジトリで公開した。収載した論考は全部で65本である。その全文を「書物・出版と社会変容」研究会・コミュニティ・ホームページ(後述)で公開している。

(5)本研究の成果をまとめた、『シリーズ本の文化史』(全6巻、平凡社)を企画し、研究期間内に、巻1~巻3の3冊を出版した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計95件)

若尾政希「江戸儒学とは何だったのか」『歴史と地理』690号,p.37-46,2015,査読無

佐藤貴裕「節用集展開史の後景」『文学』16巻5号,pp.45-57,2015,査読無

杉本史子「新たな海洋把握と「日本」の創出」『日本史研究』634号,p.3-31,2015,査読有

Wakao Masaki “ Ideological Construction and Books in Early Modern Japan Political Sense, Cosmology, and World Views ” 『Listen, Copy, Read Popular Learning in Early Modern Japan』 Matthias Hayek and Annick Horiuchi, 2014, Koninklijke Brill, p.46-69, 査読無

井上智勝「明治維新と神祇官の「再興」」島園進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教1 将軍と天皇』(図書所収論文),春秋社, p.148-178, 2014, 査読無

若尾政希「深読みする歴史学 青木美智男における文化史の発見」『歴史学研究』921, p.49-58, 64, 2014, 査読有

梅田千尋「近世本所の家伝と家職 「陰陽道」像の模索」『歴史評論』771号, p.51-62, 2014, 査読有

若尾政希「江戸時代前期の社会と文化」大津透・桜井英治・藤井讓治・吉田裕・李成市編著『岩波講座・日本歴史 第11巻・近世2』(図書所収論文), 岩波書店, p.279-314, 2014, 査読無

西村浩子「角筆文献の可能性」『歴史評論』768号, p.11-16, 2014, 査読有

鈴木俊幸「葉書が語る明治の書籍流通 岡田為助宛三木佐助葉書」『書物学』1号, p.61-63, 2014, 査読無

若尾政希「思想史という方法 歴史と主体形成」『歴史学研究』914, p.1-14, 2014, 査読有

若尾政希「書物・出版・蔵書研究から県史を読む」『山口県史の窓』32号, p.5-8, 2014, 査読無

谷口眞子「大名・旗本が求めた兵学の「知」 山鹿素行をめくって」『書物・出版と社会変容』16号, p.61-83, 2014, 査読無

小池淳一「文字文化を扱うことで民俗研究の視界はどのように広がるか」『日本民俗学』275号, p.1-13, 2013, 査読無

八鍬友広「識字史研究の課題と展望」『日本教育史研究』32号, p.126-142, 2013, 査読無

牧野和夫「談議所通蔵聖教について」『実践国文学』83, p.15-28, 2013, 査読無

佐藤宏之「物言う大名 松代藩第九代藩主 真田幸教」『歴史評論』754号, p.62-72, 2013, 査読無

小川和也「「御家」の思想と藩政改革 越後長岡藩牧野家の「常在戦場」をめくって」『歴史評論』754号, p.5-19, 2013, 査読無

浅岡邦雄「『好色一代男』の検閲をめくって 明治・大正期を中心に」『文学・語学』205, p.85-92, 2013, 査読無

若尾政希「琉球における「書物・出版と社会変容」研究序説」紙屋敦之編『対馬・沖縄調査報告集』, p.85-94, 2012, 査読無

②若尾政希「天変地異の思想」『図書』758,

p.13-19, 2012, 査読無

②若尾政希『『太平記』は尊皇の書か? 『太平記』をして史学に益あらしめん』『歴史評論』740, p.36-51, 2011, 査読無

〔学会発表〕(計19件)

Wakao Masaki, 「近世人の思想形成と「世界」」, Imaging the world in premodern Japan, Ucla, 2016年3月19日(USA・LA)

Sonehara Satoshi, The Lineage of the Sanno Deity, XXIth International Association for the History of Religion World Congress, University of Erfurt, 2015年8月28日(Deutschland・Erfurt)

若尾政希「書物・出版は社会をいかに変えてきたのか 「書物・出版と社会変容」研究会の現在と展望」, 日本文芸研究会第67回総会公開講演会, 東北大学文学部, 2015年6月6日(宮城県・仙台市)

小関悠一郎「明君像の形成と「仁政」的秩序意識の変容」歴史学研究会 2015年大会近世史部会, 慶応義塾大学, 2015年5月24日(東京都・港区)

引野亨輔「活版印刷術の普及と仏教系出版社」, 日本宗教学会第73回学術大会, 同志社大学, 2014年9月14日(京都府・京都市)

Wakao Masaki "A Discussion of Textual Aspects and the Dissemination of Toshogu Goikun", Association for Asia Studies 2013 Annual Conference, Manchester Grant Hyatt San Diego, 2013年3月23日, (USA・California)

横田冬彦「徳川吉宗の医学書普及政策と在村医」京都府医学史研究会, 京都府医師会館, 2012年10月11日(京都府・京都市)

小川和也「近世政治思想と明君録 儒教と仁政をめぐる将軍と大老の相克」北海道歴史研究者協議会, 北海道教育大学札幌駅前サテライト, 2012年9月22日(北海道・札幌市)

Miyauchi Takahisa "Change in the View of Fetel: Consumption of Ultrasound Photos" Consumption and Consumerism in Japanese Culture, Charles University, 2011年11月15日(Czech Republic・Prague)

若尾政希「天変地異の思想」第14回日韓歴史共同研究シンポジウム, 韓国国立木浦大学, 2011年8月18日(韓国・全羅南道務安郡)

〔図書〕(計18件)

若尾政希編(共著者:岩坪充雄・梅村佳代・八鍬友広・佐藤宏之・岩橋清美・小池淳一・鈴木理恵・和田敦彦)『シリーズ本の文化史3 書籍文化とその基底』平凡社, p.356, 2015

島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編(共著者:若尾政希・万波寿子・柳沢昌紀・松金直美・小池淳一・山本英二・引野亨輔・小川原正道1・大谷栄一)『シリーズ日本人と宗教5 書物・メディアと社会』春秋社, p.257, 2015

横田冬彦編(共著者:横田冬彦・佐竹朋子・高橋章則・工藤航平・山中浩之・引野亨輔・青木美智男・鍛治宏介・宮内貴久)『シリーズ本の文化史1 読書と読者』平凡社, p.332, 2015

鈴木俊幸編(共著者:鈴木俊幸・堀川貴司・高木浩明・岩坪充雄・佐藤貴裕・柏崎順子・山本英二・高橋明彦・磯部敦)『シリーズ本の文化史2 書籍の宇宙』平凡社, p.334, 2015,

島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編(共著者:神田千里・蓑輪頭量・前田勉・神田秀雄・高橋章則・岡田正彦・オリオン・クラウタウ)『シリーズ日本人と宗教2 神・儒・仏の時代』春秋社, p.267, 2014

小川和也『儒学殺人事件』講談社, p.386, 2014

若尾政希『近世の政治思想論』校倉書房, p.369, 2012

鈴木俊幸『書籍流通史料論序説』勉誠出版, p.477, 2012

小関悠一郎『<明君>の近世 学問・知識と藩政改革』吉川弘文館, p.303, 2012

鈴木理恵『近世近代移行期の地域文化人』塙書房, p.574, 2012

〔その他〕

研究代表者若尾政希ホームページに、本研究の成果に関する情報があります。

(<http://www.soc.hit-u.ac.jp/~wakao/index.htm>)

一橋大学機関リポジトリに「書物・出版と社会変容」研究会コミュニティ・ホームページがあります。

(<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/16282>)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

若尾 政希 (WAKAO, Masaki)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号: 80210855

(2) 研究分担者

横田 冬彦 (YOKOTA, Fuyuhiko)

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 70166883

鈴木 俊幸 (SUZUKI, Toshiyuki)

中央大学・文学部・教授

研究者番号: 00216417

牧野 和夫 (MAKINO, Kazuo)

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号: 70123081

山本 英二 (YAMAMOTO, Eiji)

信州大学・人文学部・教授

研究者番号：20262678

柳沢 昌紀 (YANAGISAWA, Masaki)
中京大学・文学部・教授
研究者番号：60267896

柏崎 順子 (KASHIWAZAKI, Junko)
一橋大学・大学院法学研究科・教授
研究者番号：20262389

高橋 章則 (TAKAHASHI, Akinori)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：10187990

杉本 史子 (SUGIMOTO, Fumiko)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：10187669

曽根原 理 (SONEHARA, Satoshi)
東北大学・学術資源研究公開センター・助教
研究者番号：30222079

引野 亨輔 (HIKINO, Kyosuke)
千葉大学・文学部・准教授
研究者番号：90389065

佐藤 貴裕 (SATO, Takahiro)
岐阜大学・教育学部・教授
研究者番号：00196247

小池 淳一 (KOIKE, Junichi)
国立歴史民俗博物館・研究部・教授
研究者番号：60241452

高橋 明彦 (TAKAHASHI, Akihiko)
金沢美術工芸大学・美術工芸学部・教授
研究者番号：00264573

西村 浩子 (NISHIMURA, Hiroko)
松山東雲女子大学・人文科学部・教授
研究者番号：20248339

八鍬 友広 (YAKUWA, Tomohiro)
東北大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：80212273

鈴木 理恵 (SUZUKI, Rie)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：80216465

浅岡 邦雄 (ASAOKA, Kunio)
中京大学・文学部・教授
研究者番号：20454358

小川 和也 (OGAWA, Kazunari)

中京大学・文学部・教授
研究者番号：90509035

谷口 眞子 (TANIGUCHI, Shinko)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：70581833

宮内 貴久 (MIYAUCHI, Takahisa)
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授
研究者番号：10327231

青柳 周一 (AOYAGI, Shuichi)
滋賀大学・経済学部・教授
研究者番号：40335162

井上 智勝 (INOUE, Tomokatsu)
埼玉大学・大学院人文社会科学研究科・教授
研究者番号：10300972

梅田 千尋 (UMEDA, Chihiro)
京都女子大学・文学部・准教授
研究者番号：90596199

小林 准士 (KOBAYASHI, Junji)
鳥根大学・法文学部・教授
研究者番号：80294354

小関 悠一郎 (KOSEKI, Yuuichiro)
千葉大学・教育学部・准教授
研究者番号：20636071

佐藤 宏之 (SATO, Hiroyuki)
鹿児島大学・学術研究院法文教育学域教育学系・准教授
研究者番号：50599339